

法学館憲法研究所 Law Journal 論文投稿規程

1 趣旨

この投稿制度は、憲法学を中心とする領域において活躍が期待される研究者等（比較的若い層を念頭に置く）の業績を審査し、一定の水準に達したと判断された論稿に発表の機会を提供することによって、法学研究の発展に寄与することを目的とする。

2 応募資格

大学院前期博士課程修了（修士）以上の学歴あるいはそれに相当する経歴を有する者とする。

3 投稿論文の種類等

公法学に関する学術的な和文論文で、未発表のものに限る。

4 論文提出

(1) 提出方法

- a) 論文は、メールにて提出すること。
- b) 論文の宛先（提出先）・表題は以下のとおりとすること。
 - ・宛先 kenken@jicl.jp
 - ・表題 「LJ 投稿」
- c) 論文には表紙として「論文投稿シート」（別紙参照）を添付し、論文投稿シートには下記を記載すること。
 - ・記入日
 - ・氏名
 - ・所属
 - ・連絡先（メールアドレスおよび電話番号）
 - ・論文タイトル
 - ・論文要旨（400 字以内）
- d) 論文にはタイトルのみ記載すること。

(2) 分量

分量は、15000 字以内とすること（図表や脚注を含む）。

(3) 形式

- a) 論文は横書きとすること。
- b) Microsoft Word で作成すること（拡張子は「.docx」とすること）。

- c) 中見出し・小見出しは、Ⅰ Ⅱ Ⅲ…、1 2 3…、(1)(2)(3)の順とすること。
- d) 注は脚注機能を使用すること。もしくは、1) 2) 3) …のように半分カッコで記すこと。
- e) 文献等の表記について

- ・著書の場合、初出の際はフル表記とし、再度掲記するときは「前掲」とすること。

- ＜例＞ 駒村圭吾『憲法訴訟の現代的転回—憲法的論証を求めて』（日本評論社、2013 年）

- ＊ 頁

- 駒村・前掲注 1) ＊ 頁

- ・単行本収録論文の場合

- ＜例＞ 浅羽祐樹「司法を政治学する」駒村圭吾＝待鳥聡史編『統治のデザイン 日本の「憲法改正」を考えるために』（弘文堂、2020 年）＊ 頁

- 櫻井智章「最高裁判所の二重機能の問題性」駒村＝待鳥編・前掲注 2) ＊ 頁

- ・雑誌の場合

- ＜例＞ 駒村圭吾「同性婚訴訟、ふたつの高裁判決—高裁判事たちの挑戦とそこに宿る陥穽」
法学セミナー841 号（2025 年）＊ 頁

- ・判例の場合

- ＜例＞ 最大判令和 4 年 5 月 25 日民集 76 卷 4 号 711 頁 または
最大判 2022 年 5 月 25 日民集 76 卷 4 号 711 頁

- f) 脚注等において「拙稿」など本人を推察させるような記述をしないこと。

5 論文受領

(1) 受領確認

論文を受領した際は、メールにて連絡する。

(2) 校正

- a) 校正は、投稿者による 1 回のみ認める。
- b) 誤植の訂正程度に限ることとし、内容の訂正は認めない。

6 審査

(1) 審査

- a) 審査にあたっては、本誌への掲載にふさわしい水準・内容であるか否かを総合的に判断する。
- b) 本誌の趣旨に合致しないものについては、査読に付することなく不採用とすることがある。
- c) 査読者の査読結果に基づき、本誌査読委員会が掲載の可否を決定する。

(2) 査読

- a) 査読は、本誌査読委員会が委嘱した査読者が行う。
- b) 査読者は匿名とする。

c) 投稿 1 件につき査読者は 2 名とする。

(3) 結果通知

a) 論文提出締切り 1 か月後を目途に、結果のみメールにて行う。

b) 結果は、以下のいずれかとする。

- ・掲載

- ・掲載不可

- ・補正の上掲載可

- ・掲載順延（掲載枠を超えた場合、次号以降に掲載を行う）

c) 査読内容ならびに結果に対する問い合わせには応じない。

d) 結果通知までは他の媒体に投稿しないこと。

7 その他

(1) 原稿料

原稿料は支払わない。

(2) 掲載誌の献呈

論文の掲載号を 1 部謹呈する。